

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年 1月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0773300199		
法人名	社会福祉法人 南相馬福祉会		
事業所名	グループホーム たんぼぼ		
所在地	〒979-2334 福島県南相馬市鹿島区西町三丁目3番地 (電話) 0244-67-1554		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなビル302号室		
訪問調査日	平成19年12月11日	評価確定日	平成20年2月7日

【情報提供票より】 (19年10月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 12月 4日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	800 円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	3名	要介護2	3名
要介護3	2名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 87.7歳	最低 81歳	最高 100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鹿島厚生病院、西町歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

新興住宅街の中の福祉ゾーンに位置し、周りには保育園、デイサービスセンター、市社協、福祉センター、病院等があり、同法人が運営する特養に隣接する1ユニットのホームである。目の前にある保育園とはお互いに訪問し合い交流しており、利用者はとても楽しみにしている。利用者に馴染みのある昔ながらの行事を大切に、利用者に教えてもらいながら毎月実施している。このホームでは、利用者がお互いに支え合いながら生活している様子が伝わってくる。新任職員には、「あの人は、今トイレに行きたいんだよ」と利用者の様子から別の利用者が教えてくれることがある。また、このホームでの勉強会は同じものが2回ずつ予定されており、必ず職員が参加できるような配慮がされている。管理者をはじめ職員全員でサービスの質の向上に向けて取り組んでいる姿勢が伝わってくる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果を昨年度の運営推進会議で報告した。要改善となった「定期健康診断の支援」については、今年度の運営推進会議の中で行政職員から(市内の人は)利用者の名簿により受診可能となることの連絡があり、改善に向けて具体的な取り組みとなった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者が評価の意義や目的を伝え、全職員で取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5) 行政職員、地域包括支援センター管理者、民生児童委員、地域ボランティア会会長、認知症の人と家族の会副会長、家族代表等に委員をお願いし、概ね2ヶ月に1回開催している。運営推進会議では、ホーム内の行事、外部評価結果、職員の研修会参加状況、今年度の計画等を報告している。運営推進会議でホームに来た苦情(ホーム単独の電話回線がないため、電話がつながりにくい)の対応を相談し、ホーム単独の電話回線を引くことになった。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族宛に利用者ごとの近況や健康状態を報告しながら、家族が意見等を言いやすいよう工夫している。年に4回『万葉園だより』を隣接の特養と一緒に発行し、日頃の利用者の様子(外出時、行事等)を写真で伝えている。家族から寄せられた意見等はどんな些細なことでも申し送りし、職員間で情報を共有し、運営へ反映させている。今後は、毎月の請求書を送付する際に、利用者の様子を手紙で伝えるよう検討している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域行事(敬老会、お祭り等)に参加しており、事業所でも地域の人達が参加できる納涼祭等を開催しているため、地域との交流は行われている。運営推進会議において、地域との連携も確保されるようになった。近くの保育園児やボランティアが交流に訪れ、利用者の楽しみとなっている。現在、利用者が地域の老人会にも参加できるようお願いをしている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの基本理念は「思いやり・やさしさ・ありのまま」「ともに生活する喜び」と従来からの理念としての取り組みはできている。しかし、平成18年度から地域密着型サービスへと移行されたため、地域密着型サービスの役割を加えた理念に作りかえる必要があると思われる。	○	地域密着型サービス事業所としての支援はされているので、現在の理念に地域密着の表現を加えてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、玄関、事務室、ホール等に掲示されており、常に職員の目に触れるようになっている。また、毎月の職員会議の中でも管理者から掘り下げて説明し、職員間で共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの周りは、鹿島地区の福祉ゾーンとなっており、併設の特養、保育園、保健センター、デイサービスセンター等があり、保育園等との交流を行っている。地域のお祭りなどへ参加しており、現在は自治会、老人会などへ参加をお願いしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果で要改善となった「定期健康診断の支援」は運営推進会議の委員(行政職員)の協力もあり、受診できるようになった。今回の自己評価は職員全員で取り組みを行った。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議は2ヶ月に1回定期的に行われており回をかさねるごとに委員から積極的な意見が出され充実したものとなっている。ホームで独立した電話回線がなく、家族より電話が繋がらない、と苦情があり改善について委員から意見を求め改善した。メンバーを行政福祉職員、老人クラブ会長、認知症家族の会、民生委員等、にお願いしている。</p>		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時に近況や健康状況などを報告している。突発的な状況はその都度報告し、年4回の広報誌「万葉園だより」は、併設の特養と合同で作成している。1月より請求書と一緒に手紙等を入れるように検討している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会に来た家族から、要望等を聞くようにしており、速やかに対応するよう努めている。また、運営推進会議でも家族代表者からも要望を出してもらえるよう働きかけている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者や運営者は、馴染みの関係の重要性をよく認識しており、法人内異動は、男性職員は2～3年ごとの異動があるが、女性職員は開設以来異動はない。管理者は職員のストレスをできるだけ少なくするよう、職員間のコミュニケーションを大事にしている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質向上にむけて積極的に外部研修に参加させている。外部研修は職員の段階に応じて参加させたり、本人の希望により参加できるようにになっている。ホーム内研修会は同じ研修会を2回（全員が受けられるように）行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県のグループホーム連絡協議会に参加し、積極的に交流を図っている。この地域のグループホームは、相互に職員を受け入れてサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している（小規模多機能居宅介護）			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りでは野菜の切り方、調理方法、味付けなどを教えてもらい、畑仕事や季節ごとの行事（お正月、節分、お彼岸、お盆等）も教えてもらいながら、一緒に行っている。そのなかでお互いに支えあいながら共に生活している。また、職員と利用者が同じアイドルに好意を寄せお互いに「喜び」や「楽しみ」を共感している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日常会話の中から本人の意向を把握するよう努めている。あまり自分の意思を表現しない利用者の場合、家族からも情報を得るよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族面会時に聞き取りをしたり、本人から話を聞いている。計画作成に関しては担当者と計画作成担当で案を作り他職員と相談して完成させている。しかし、本人に関する情報があちこちにあるために、一つの介護計画にまとめにくいと思われる。センター方式のシートを部分的に活用したり、利用者の生活歴を聴取しどうケアに活かすか等を話し合ってみてはどうか。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実際のケアの場面においては日常的に意見交換し、それを活かす工夫がなされているが、介護計画を毎日確認していないため、見直しが3ヶ月ごととなっている。状態変化に合わせてその都度、計画変更する必要がある。	○	介護計画書の期間には具体的な日付を記入するとともに、毎日、目にするところに介護計画書を置き、変更があればすぐに記載できる工夫を考えてみるのがよいと思われる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームの協力医療機関や馴染みのかかりつけ医等受診の際、職員の通院介助により利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。職員が同行した場合の通院結果及び薬の処方等について必要に応じて、家族へ報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの看取りや重度化に関する指針は作成されていない。また、家族や本人の意思も聞き取られていない。	○	今後は、重度化に関するホームの指針を作成し利用者や家族へ説明する必要があると思われる。重度化に伴う家族の意思確認書等により家族の意向を確認しながら、職員間で（利用者が自己実現できるよう）対応方針について情報を共有することが大切である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを尊重し、プライバシーには十分配慮した言葉かけや対応をしている。さらに、職員は個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望で買い物、散歩等ができるよう、職員の業務を見直し支援している。利用者一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。朝7時前に散歩に出る人もいるということであった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や後片づけ等、利用者個々の力を活かしながら職員と一緒にやっている。また、利用者の好きなメニューを取り入れながら栄養バランスを考えて献立を立てている。今後は、職員も一緒に同じものを食べることで、同じ状況を共有し利用者の状態を把握できる機会であることを理解してほしい。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	管理者は、入浴を利用者一人ひとりの自己決定の良い機会だと考え、職員が毎日利用者の意向を確認しながら、入浴支援を行っているため、毎日入浴する利用者も多い。また、利用者の羞恥心や抵抗感にも配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	職員は、利用者の得意なことを把握している。毎日のメニューを書いたり、台所仕事をしたり、お茶を入れたり、編み物や縫い物をしたり、習字をしたりとそれぞれに合った楽しみごとができるよう支援している。居室にまな板やナイフを準備している利用者があり、家族から差し入れられたゆずで砂糖漬け等を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	ホーム全体で出かけることもあるが、基本的には2~3人ずつ出かけることが多い。利用者の自宅周辺を見に行ってみたり、イルミネーションのコンテストを見に行ったり、職員の役場での手続きに同行したりしている。また、利用者の希望に応じた散歩や買い物に出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム開所時から、玄関の鍵は暗証番号による開錠システムになっている。現在、このロックシステムをはずせるかどうか業者に確認してもらっている。さらに、暗証番号を開錠システムに貼付けているため、利用者も自分で開錠し外に出ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月、隣接する特養と防災訓練を実施している。年に1回、近隣の非常災害協力員も総合防災訓練に入ってもらっている。さらに、災害に備えた備蓄も準備されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ごとに食事量や水分量を常に確認し記録している。定期的に隣接特養と合同で給食会議を実施し、利用者の希望を取り入れ管理栄養士が献立を立てている。利用者に合わせて、刻み等を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、天井に大きな天窓があり、空が見え日中は照明が不要な明るさである。床暖房を取り入れているため、足下から適度な暖かさが伝わってくる。季節感が感じられるよう（クリスマスツリー等）飾り付けられていたり、利用者の作品（刺し子、書道作品等）を展示している。さらに、毎日の掃除により気になる臭いも感じられない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が好きなアイドルの切り抜き写真等が貼ってあったり、自分で作った造花や折り紙細工等を飾り付けていたり、家族との写真が置かれていたりする。自宅からできるだけ利用者の馴染みの物を持ち込んでもらい利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム たんぽぽ

記入担当者名 阿部 夕子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。